

SE 人のざわめき（外） ドアを開ける音、ベルの音 人の話し声（店内）

イザベラ いらっしやいませ！

アラン いらっしやいませー

ウィル いらっしやいませ、おひとり様で？…カウンターでもかまいませんか？ご案内致します。

ウィル お客様、初めてのご来店でいらっしやいますよね？ありがとうございます。
お飲み物はお決まりですか？…はい、赤ワインで。少々お待ちください。

イザベラ ご来店ありがとうございます。このオーナーのイザベラと申します。どうぞごゆっくり
お過ごしください。…え？ああ、いえ、あと二人キッチンにおりますわ。

ウィル 失礼いたします。(SE ワインを注ぐ音)

アラン 何一？新しいお客さん？あ、ウィルこれ3番の方の。

ウィル はい。(キッチンを出てホールへやってくる)

イザベラ アラン、工作中でしょ。

アラン いいじゃん、オーダー一区切りついたし。こんな町に新しいお客さんなんて嬉しいねえ、
観光？

イザベラ んもう…

アラン あ、お客さん今からオーダーでしょ？俺のオススメメニュー教えてあげるよ、えっとね…

エマ なぁにそれアラン。常連のあたし達には教えてくれないの？

アラン 違うよ、君たちはもうこのメニューなんて知り尽くしてるだろ？2年前に二人が初めて来
た日、俺は忘れもしないよ。

レナ (からかうように) ほんとかしら。じゃあ何月何日だった？

アラン (焦って) え？えー…な、忘れもしないよな、ウィル！

ウィル そうですね、2年前の6月26日のランチ時、注文されたのはジェノベーゼとペペロンチー
ノだったかと。

エマ様が青、レナ様が深緑のお洋服をお召しで、とても似合ってたっしやいました。

エマ 覚えてるの！？すごいわ、ウィル！

レナ 今ちょっとときめいちゃったー

エマ うちの旦那なんて結婚記念日すら忘れてるのに！ちょっと交代してくれないかしら。

レナ いいわね、それ！ (エマと二人で笑う)

イザベラ さすがね。口先だけで女性をたぶらかす誰かさんとは大違い。

アラン ちょっ、ベラ！

イザベラ オーナーとお呼び。

レナ そう言えばベラ、主人の件本当に助かったわ。ありがとう。

イザベラ ああ、出版決まったんでしょう？おめでとう。でもそれはあなたの旦那様に才能があった
からよ。私はちょっとお手伝いしただけ。

レナ それでも、あなたの口添えがあると無いとじゃ大違いよ。
今日は都に打ち合わせしに行ってるわ。

イザベラ そう、よかった。

エマ おかげであたし達はここでこうして飲めるし、いいこと尽くしね。

レナ ほんとほんと！

イザベラ ふふふ…あ、あなたの方はどうなの？

エマ んー、まだまだね。仕方ないわ、新入りだもの。
でも、いつか絶対自分で考えた洋服を作ってみせるわ。

イザベラ その時は私が試着第1号ね。

エマ 当たり前よ！

イザベラ ありがとう。(他の客に呼ばれる) あ、はい、伺います。

アラン ん？ああ、ここには色んなお客が来るからな。そこでずっと書いてる人は作曲家志望、その隅の男性は自分の店を持つため頑張ってる。
ベラは顔が広いから、自然と人と人を結ぶ役になってる。

ウィル この店がきっかけでご結婚された方たちも、何人かいらっしゃるんですよ。ありがたいことです。もちろん、辛いことがあった方もよくいらっしゃいます。
そんな時はベラや私たちに吐き出してもらって、次の一步を踏み出して頂いていますね。

アラン お客さんも、何かあれば遠慮なく言ってくれよ？

ウィル そうだアラン、せつかくですし、さっき言っていたおすすめメニューを教えてさしあげたらいかがですか？

アラン ああ、そうだな。(メニューを指さしながら) とりあえず、このアンティパストミスト、前菜の盛り合わせは絶対だ。俺の気分と季節によってメニューが変わるから、二度と同じものは食べられないぜ。あとは…つまみにぴったりなのはこの自家製ナッツの燻製とか、鶏のフリッターとか、海老とキノコのアヒージョとかかな。あ、あと食後はドルチェ絶対頼めよ、今月のは特に力作だから。

ウィル ここのドルチェは、店の者皆で試食を重ねた、自慢の一品でございます。

アラン ああ、一人えらく舌の肥えた坊ちゃんがいるからな…

ウィル ええ、今回も厳しかったですね…

ルイス 誰が坊ちゃんだって？

アラン うわあ！驚かせるなよルイス。

ルイス キッチンほったらかして客に絡んでるコックが言うな。
あと僕はもう13だ、坊ちゃんと呼ばないでくれ。

アラン (小声で) いや、だってほんとに坊ちゃんだし…

ウィル 今、ルイスがアドバイスしてくれたドルチェがとてもおすすめです、という話をしていたんです。

ルイス ああ、あれか。(得意げに) そうだな、何度もリメイクを重ねたおかげで今月も至高の一品ができたと自負している。

アラン それ全部作ったの俺なんだけど？お前口出してただけじゃん。

ウィル ま、まあ、アドバイスということ…

アラン アドバイスっていうか毒舌だよな。『こんなものを客に出すつもりか』『あと1ミリ繊細さがほしい』『これでは素材を殺している』お前のそのドルチェに対する執念何なの？

ルイス 僕は感じたままのことを言っているだけだ。

ウィル ルイスは、甘いものが大好きなんですよ。

好きなものには、とことんこだわるものですよ。

アラン　　まあねえ…でもそれで俺の精神がどんどん削られていくんだけど…
ウィル　　でも、ルイスがOKを出したドルチェは必ず売れているような…。
ルイス　　ほらな？
アラン　　うう…それを言われると痛いな…いいんだよ、俺は料理で勝負だ。

SE　　時計の音

イザベラ　　あら、もうこんな時間じゃない。
 ルイスー、もうこっちはいいから寝なさい？
ルイス　　はい、オーナー。
アラン　　お疲れ様ルイス、ちなみに今日はお皿割ってないか？
ルイス　　うるさい、割ってたのは昔の話だ。今日は割ってない
アラン　　おおおお！こりゃあ明日嵐が来るな。みんな、用心するように。
ルイス　　何だとアラン！
イザベラ　　はいはい、ケンカしないの。アラン、あなたちょっと大人気なさすぎよ？13の子に…
アラン　　だっておもしろいんだもん。
ルイス　　おもしろいって何だ！
イザベラ　　ルイスも真に受けないの。今日もありがとうね。
 それじゃ、お客様に挨拶してからおやすみなさい。
ルイス　　…はい。皆さん、ご来店ありがとうございます。ごゆっくりどうぞ。おやすみなさい。
ウィル　　おやすみなさい、ルイス。
ルイス　　ウィル、明日また稽古付き合ってくれよ。
ウィル　　ええ、わかりました。

SE　　階段を上がる音

エマ　　かわいいわねールイス。うちの子にしたいわー
レナ　　ね、次はカフェの時間に来ましょうよ
アラン　　相変わらずキッチンだけなのに人気だねえ。…ああ、ごめんよお客さん、ご注文は？
イザベラ　　お食事はいかがですか？…あら、ありがとうございます。アランが喜びますわ。
イザベラ　　ここの店員達のことですか？ええ、家族みたいなものですね。
イザベラ　　…そうねえ、お客さん。何だかお悩みのあなたに、特別に1曲プレゼントいたしましょう。
 (SE　指を鳴らす)ウィル！バイオリンお願い！
ウィル　　かしこまりました

SE　　バイオリン　音合わせ

エマ　　あら、今日はちょっと早いわね
レナ　　ベラ、今日は何歌うのかしら

イザベラ (SE ヒールの音) 皆様、本日はご来店ありがとうございます。久しぶりに、懐かしいこの曲を歌おうと思います。私の原点の歌、聞いて下さい

ME イザベラの舞台 (前奏でF O)

イザベラ ご満足頂けたかしら？

イザベラ ここの客は皆知ってるわ、私の過去を。知ってて、黙ってくれてる。私がそうしたいのを知ってるから。…あなたもそうしてくれる？

イザベラ ありがとう。…この店はね、私の再出発の場所なの。
なりたい自分になれる場所。誰もがトランプの JOKER になれる場所。それが、ここよ。
ねえ、あなたも、足掻いてみたらどうかしら？

イザベラ 自分の悩みは大きすぎるって？夢とか目標ではない、自分ではどうしようもできないようなことかしら？…んー、それでも、運と縁が助けてくれるってこともあるわ。例えばあなたがたまたま寄ったかもしれないこの店が、ただのカフェバーではなかったり、ちょっと裏の情報も扱っていたり、ね。

イザベラ この店に来たからにはどんな訳ありな人でもお客様よ。そういう人達の相談や頼みを聞いてたら、いつの間にか変なパイプができちゃってね。

イザベラ それに、こんな物騒な下町で、何の武器も持たずにお店なんてやっていけると思う？
情報と信頼、あと少しの武力。…まあ何度か店も壊されたけど直してるし。

イザベラ 人さらい、人身売買、海賊、犯罪組織…この町には色んな『悪』が常に蔓延ってるわ。
あなたが抱えている問題を解決する糸口も、私は持っているかもしれない

イザベラ (話そうとした客を止める) しいーっ

イザベラ (店の客に) 今日はまだちょっとだけ早いけど、そろそろ閉めるわ。ごめんなさいね。

SE ドアの声、ベルの音 (最後の客が帰った)

アラン 『裏』のお客さんかい？

イザベラ ええ。どうやらお悩みのご様子よ。

ウィル 私たちにできることなら、何でもいたしますよ。

アラン ああ、だってここは「Cafe&Bar JOKER」。

ウィル 何にでもなれる場所であり、最後の切り札でもある。

イザベラ さあ、あなたのお望みは…？

プロローグ おわり